

五期俳句会 第百五十六回 八月四日

「言うまいと思えどつい出る暑いなー」

の気分です。どうも全体にだれて、選句の時も、二季の句をえらん
だりして、着想が良いので変更して採用するなど、いやになります。

炎昼やちんちん電車の石だたみ

今井由紀子

みずすまし
水馬人待ち顔して動かざる

浅香さとみ

夏菊や花屋のはしに置かれをり

塩田亘子

夏便り九十翁の健在に

浅香さとみ

手花火のぼとりと落ちて静寂しじまかな

今井由紀子

片影を選ぶすべなき交差点

塩田亘子

夜明けまちすぐ鳴く蝉や庭の木々

久貝貞子

うだうだと過ひとこひごす一日の夕茜

今井結衣子

笹百合の小径を辿り美術館

松浦武子

夏の月赤くほてって夜の空

塩田亘子

初蝉や根性持って生まれしか

今井由紀子

雨上がる寺夕涼の木魚の音

塩田亘子

くま蝉の朝の合唱かまびすし

松浦武子

荷造りの紐の十字に汗たらす

浅香さとみ

郊外の喫茶に蜻蛉迷い込む

松浦武子

暑氣払ひノンアルコール旨きかな

塩田豆子

ねむの花咲く夕暮れの一時に

久貝貞子

極楽や水面きらりと蓮の花

今井由紀子

もうしんどくていやと思ひながらやっています。

先日プリンターが故障、会員に渡す分は○や◎がついて、選外も載せてあるので、どうしようか?と思ひましたが、何とか二枚だけとれたので、修理に出しました。色々有ります。